

●話題書・歴史・社会 ご担当者さま

6/13 日経新聞に岩間陽子氏書評！

レニングラード包囲戦は、第2次世界大戦の中で最も凄惨な戦いの一つである。約100万人と見積られる民間人死者数は群を抜いている。そのような戦いが、身体と都市にどのような記録を残し、どのように記憶されているか。本書は戦後すぐからフルシチョフ期にかけて、身体や博物館や記念式典が、どのように記憶操作に巻き込まれたか、現地における一次資料調査に基づき、様々なレベルの史実を拾い上げている。(書評より)

傷ついた身体と都市

「大祖国戦争」の経験と記憶

松本 祐生子 著



9784560025857

現代ロシアの礎ともなった
独ソ戦——包囲を経験した
レニングラードの荒地から、個の記憶とモスクワ
で創られる歴史との相克を描き出す。



貴店印	希望数	ISBN978-4-560-	書名	本体価格
ご担当	様	02585-7	傷ついた身体と都市	2,800円

(株)白水社 営業部 TEL 03-3291-7811
FAX 03-3291-8448 (備考 2-20)